第２回　竹原市子ども･子育て会議議事録要旨

令和６年９月26日（木）竹原市子ども家庭センター２階会議室

１．開会

欠席委員　４名

２．協議事項

（１）第２期竹原市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

資料１により事務局から説明

【質問･意見】

委員　　予防接種について、接種率は９５％以上あるのでしょうか。また、超えているものはどのようなものなのか教えていただきたいです。

事務局　現在、接種率は令和４年度が最新で、これを広島県医師会に報告しています。接種対象者の母数の考え方が定められているので、それを基準に100％を超えることも実際には起こっています。令和４年時点で95％を超えているのは、B型肝炎、日本脳炎、４種混合です。

委員　　感染予防の目的では95％を目指すことだったと思います。移動などで分母の動きがあり、正確でないのは承知していますが、できるだけ高い接種率を目指してこちらも勧奨していきたいと思っています。

（２）ニーズ量の推計と確保方策について

資料２により事務局から説明

【質問･意見】

資料説明後に，質問･意見等はありませんでした。

（３）こども子育て関連事業者ヒアリングの結果について

資料３により事務局から説明

【質問･意見】

委員　　認定子ども園の項目に幼保小連携教育推進協議会で小学校との連携が取りやすくなり、学校に声をかけやすくなったと書いてありますが、これは健康子ども未来課と教育委員会とがタッグを組んで３年目となり、保育園の園長先生や保育士、小学校の校長先生や低学年の先生を中心に、就学前の子どもと学校教育との関係がお互いに保育や授業を見て理解し合い、スムーズになっています。

　そういうことから発展し、授業が始まる前に地域の方が子どもたちに昔の遊びを教えたり、絵本を読んでくださったりして子どもたちがスムーズに学校へ馴染んでいます。このように取り組み状況として出していただくことは非常に我々としては嬉しいし、これからは非常に大事になってくると思います。

　竹原市としては、今、非常に取り組んでおられ、園長先生からは垣根がなくなったとの言葉をいただきました。これからも充実していけば、先生方の人材育成にも繋がり、子どもたちも安心して通える姿を見て保護者の皆さんも安心して任せられる、そういうことに繋がっていくのではないかと期待をしています。

委員　　認定こども園のところでやはり現場、保育士の確保も含めて大変苦労されており、それが本当に滲み出ています。そしていろいろな部分で今後の維持体制をしていくのが難しいだろうと予測をされている園が大変多いです。私どもも、子どもの数が昨年度で３０名減りました。これからも２０名から３０名の単位で数年間は減っていくだろうということで、先行きの経営に対しても大変不安を感じているところです。

当然、子育て支援というのは大切で、特にこれから次の新しいこども計画を作るにあたっては尚更重要な計画になるのではと思います。東京は第１子から保育料無償化、三原市も第２子から無償化にされています。

計画はどうしても親の目線から立てていくことが多いと思います。しかし保育士をどのように確保していくのか、園児が減少していく中でどういったフォローをしたらいいのかを計画の中に入れていただきたいです。

また、ぜひとも聞いておきたいのは、今後、児童数の人口推移を見てもどんどん減る中で、竹原市は私立のこども園に対してどのような考えを持っていらっしゃるのかということです。自然淘汰でいくのか、それとも公立も歩幅を合わせながら一緒に頑張っていきましょうというスタンスなのか。ヒアリングに来られた時に熱く語らせていただきましたが、現実の話として、従業員の生活とか、預かっている園児さんをどうするのかとか、これからの教育、投資はどうしていくのか。自然淘汰であれば大きな投資はできない。遊具や教具、いろいろな保育の充実を考えているけれど、自然淘汰であれば控えていかないといけない。児童の人口推計を見れば経営者としてはシビアな問題がすぐそこに迫っています。次の計画にどれだけ反映されるのかお聞きしたいです。

それと、放課後児童クラブですが、これも現場は本当に大変です。親が１０人いると、１０通りの教育理論があり、放課後児童クラブに対する期待とか責任が出てきます。それを成長の度合いが全く違う１～６年生を同じ部屋の中に入れ込むことで、いろいろなトラブルが起きます。けれど、現場の先生方は強く指導ができないです。それは皆さんわかっていただけると思います。

こども園も同じです。もう少し親御さんが教育、子育てに積極的であってほしいなと思いますが、いろいろ事情があって出来ず、こども園や放課後児童クラブに任せていただけるならば、もう少し尊重していただきたいと思います。

親育ても必要ですが、子育ての部分だけではなくて、親もいろいろなサークルのようなもので集まっていただき、ディスカッションして作っていくような計画を立てていただければいいなと思っています。

（４）竹原市こども計画の施策の体系（案）について

資料４により事務局から説明

【質問･意見】

委員　　５つの柱の目標ということで、基本的なものをあげていただきましたが、若者の出会いや結婚支援はとても大事な事業だと思います。今はすでにアプリを使った出会いの事業をしておられますが、やはりそれプラスアナログによる人と人が向き合いながら出会いの機会を作ることは有意義だと思います。やはりアプリに加えて人と人との出会い、そういう人を巻き込み、竹原の活力活性化も２次目標にしながらただの出会い系だけじゃなくて、竹原の町全体を舞台にした出会いのプランを作っていただきたいと思います。

これは１から５まで全てそうです。どうしても縦割りの前例主義に陥りやすくなりますが、できるだけ１つ１つを横断的な事業にしていって、市を巻き込みながら何か計画できたらいいなと思っています。１番大事なことは、現場の市の職員の皆さんが「これはやったよね」という計画であれば全て素晴らしい計画になると思います。

会長　　ありがとうございました。

委員　　基本理念がすごく大きく出たなと思っています。でもその最後の説明にもあるように、子どもの成長を応援するまちづくりというのはすごくいい言葉だなと思います。夢を叶えることまで約束が出来るのか。夢を応援するとか、もう少し実現可能な理念というか。こういう言葉は強いアピールの方がいいかもしれないですが、ここまで言っていいのかと思ってしまったので、皆さんどうお考えなのかなと思います。

会長　　ありがとうございました。今のご意見につきましては、事務局の方からよろしいでしょうか。

事務局　確かに大きく出ています。今回こども計画ということで、こどもを主語にしたという工夫をしてまとめています。理念としては、この5つの目標が揃ったら子どものそれぞれの夢や希望が叶う、それを支えるということで大きく出てはいますが、職員間でアイデアを出した中でしっくりきたものを採用しました。

委員　　私も基本目標として掲げられることは大変いいとは思いますが、私なんか単純に新しい奨学金でも作ったのかと思いました。ここまでしっかり学ぶとか、子どもたちを応援したいと言ったら、新しい奨学金やいろいろな施策が出来るのかと思いましたが、既存の施策を順番に入れていくだけでは意味がないと思います。新しいことをしてこの目標としているのであれば、せめて新しいものを入れるとか。それと、さっき別の委員が課題と今後の展望のところをしっかりと言われていましたが、どこを見ても現場の皆さんが苦労しておられます。
　竹原の子育てを考えるにあたって、1番実践してくださっている現場が皆さん苦労しているということは、何か新しいことを考えていかないといけないと思います。

会長　　ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員　　「子どもがしっかり学ぶまち」で学校をはじめとする教育環境の充実とありますが、北部の学園構想であったり、県立高校のあり方であったり、そういうことも18歳未満の教育環境の1番大きな展望の柱であると思うのですが。

会長　　ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員　　先ほど幼保小連携と言いましたが、そこから義務教育があり、竹原の高校教育に繋がっていくような子ども子育てのラインができていくのが本来の姿だと思います。けれど、そこまでカバーできないので、我々が議論する上では竹原で子どもを育てていくことを大事にしていかないといけないと思います。
　これが今度素案になり、5つの目標の枠ができるとすると枠ごとに切れた取り組みになりがちですが、貫いたものとして自らの夢や希望を叶えることができるように。
　夢が叶えられないとすると、一番の要素で今取り上げられるのが子どもの貧困だと思います。生まれた時はみんな一緒なのに、貧困ということがある中で、自分の夢や希望が叶えられない子どもがいることは事実です。そこを竹原市としてどう取り組んでいくのか。少し話が余談になりますが、毎年、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力学習状況調査があります。その中で子どもたちへのアンケートがありますが、今回初めて「あなたの家には蔵書が何冊ありますか」という問が出ました。国が調べたかった貧困の背景にあることを今はいろいろな学者が調査されてい

ます。例えば家の経済状況とかあるいは文化度、体験等ありますが、家の蔵書数と子どもたちの学力の数値をクロスしていくと、やはり蔵書が多い子どもの方の学力が高いというデータが出ています。けれど、蔵書は少ないが学習の仕方を工夫することによってそれなりの結果が出ていることもあります。そういう視点を持っていきながら、竹原市として貧困の問題をどうカバーして支援していくかをこども計画が出来た時に言えないといけないと思います。

資料１に書いてありましたが、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう子どもたちの環境を整えていくことが大切だと思います。親が子どもに関心がないという意見もありましたが、そういう中で育った子が親になった時、本当に関心を持って育てられるのかというそこの連鎖を断たないといけないと思います。基本理念が実現していく上で目標を貫くものとして念頭に置いていただきたいと思いました。

会長　ありがとうございました。

委員　出会いの場のマッチングアプリの事業を市の方で今年から始められたところです。いろいろと議論はありますが、市役所の職員も実際に結婚している方、今年結婚するような方の中にもマッチングアプリを活用した出会いがあるということもあり、我々の世代とは全く違って、抵抗感も比較的少なく利用されていると思いました。

今回のマッチングアプリについては、独身の証明、利用方法だったりと、業者間でそういう取り組みをした、いい業者としての認定を受けたところに委託をしていますし、研修的な最初のプログラムというのも進めていただいています。リアルで実際にお会いするという部分でも若者の集えるようなイベントやそういったものを仕組んでいただく。例えば若い人たちでそういうイベントを考え、実際にいろいろな人を集めていただいて、交流の場を作ることに対し支援する予算を今年組んでいます。現時点で、青年会議所さんがスポーツイベントを計画していただいていると聞いています。そういったことにも補助をさせていただきながら、両面で具体的な政策を進めさせていただいておりますので、ご理解をいただければと思います。

３　閉会

次の会議は 11 月下旬から 12 月上旬に予定。

以上